

初秋とはいえ残暑厳しく、まだまだビールと枝豆が必需品です。そろそろ気配がしてきた実りと収穫の秋まであと一息です。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

◆「ひと」

8月17日、十日町石彫シンポジウム20周年記念式典に出席させていただきました。そのご案内要旨です。

『十日町は、全国に誇れる彫刻の街になりました。野外彫刻につきましては、本事業の目的とした設置を終え、活用段階にきたものと判断し、十日町石彫シンポジウムは、今回を持ちまして終焉することにいたしました』

【芸術文化のおおる街づくり】に端を発した石彫シンポジウム。80数体の作品を新しい街の顔として街路に残し、終焉を迎えました。



歴代の参加作家たち。中央に野上公平氏。右から2人目に藤巻秀正氏。元気だ！

ところが、十日町人は後ろ向きではありませんが、石彫シンポジウムのコーディネート・藤巻秀正氏は将来をこう語りました。

「日本中から参加してくれた80数人の作家の人脈は、これから輝きます。作家参加のギャラリーをつくり、そこから十日町を発信していく」

いまの若者は、年寄りより年寄り。だからもう一頑張り、と74歳の超若者は付け加えました。(館長 佐藤吉昭)

◆大嶋月庵・桑原逸庵 師弟展

桑原逸庵さんが日本画を学ぶため、大嶋月庵さんの門戸を叩いたのは、昭和63年のことです。大嶋さんが教える小出の彩月会日本画教室を訪ねたそうです。桑原さんが37歳、大嶋さんは57歳でした。20歳違いの師弟です。その年は大嶋さんは日本水墨院第二代理事長に就任した年で、日本水墨院をけん引する中心的な存在でした。当時桑原さんは、中華料理店を経営しながら、月に2回教室に通ったそうです。

大嶋さんも昭和23年、17歳のとき、小出町の日本画家・宮里静輝さんに弟子入りしました。最初は断られました。が、何度も通ううちに熱意が認められ入門を許されたそうです。その後、東京の大平華泉に師事し、本格的な日本画家として活躍します。

いま、桑原さんが日本水墨院の常務理事になり、昨年は内閣総理大臣賞も受賞しました。日本画の心が画家から画家へ受け継がれています。(広田かおり)

◆白球を飛ばす！ Part 2

前回練習をした数日後に池田記念美術館、ゴルフ倶楽部のコンペがありました。ボールは練習場のように飛ばず苦戦の連続でした。2日後、熱心な友人の誘いにのり、別のゴルフ場で再び挑戦。友が言うには、コースに出て実戦で練習したほうが良いとのこと。4人の中でスコアが一番良く、バーディーも出た彼は夕刻の反省会の酒盛りで、話も絶好調！

さらに3週間もたたずに再び実戦練習となった。そこでまたバーディーを2回も取り、いつの間にかこのメンバーの練習ラウンドは「バーディーを取る会」と命名されていた。その友人は帰り際に次の練習日を予約していた。自分は日程が合わず参加できませんでしたが、その熱意には脱帽です。負けずに精進せねばならぬと思いつつ、今の心境を一句。白球や小穴に入れば秋の音 (岡西英孝)

◆美術館でストレス解消

お盆期間中に健康に関するテレビ番組を幾つかの局が順番で放送していました。お墓参りで集まった親戚が、健康に関心を持つ年代になったこともあり、血圧の数値や認知症などの話に盛り上がっていました。「自分は大丈夫だ」とか「まだまだ自分は若い」など、健康には自信を持っているようでした。名医が現代社会はストレスが非常に多く、病気の一因でもあると診断しているのを聴き、納得しているかのように頷いていました。

来館されるお客様に「こんなに素晴らしい環境で働いているとストレスが溜まらないでしょう」とよく声をかけられます。確かに受付から景色を眺めていると、深緑で目の疲れがとれ気持ちよさが着きほつとします。疲れの溜まっている方は気分転換に、雄大な八海山や池のアヒルたちを眺めながら癒されてみませんか。お待ちしております。(佐藤良子)

◆水面に浮かぶアヒルくん

まだ夏の名残を惜しむように、公園の鳥たちは水遊びを楽しんでいます。ずっと一人ぼっちだったアヒルくんにも仲間ができ、また賑やかになった池を眺めているのは嬉しいものです。



八色の森のアヒルと鴨は仲が良く、一緒に泳ぐ姿を見ることも多いですが、お気に入りの休憩所はそれぞれ決まっています。いつも同じ石の上で休む一羽のアヒル。近くで見ればなんてことない日常の風景ですが、美術館のエントラン

スから見ると、なんとアヒルが水面に浮かんでいるように見えるのです。嘘のような話ですが、百聞は一見にしかず。ぜひ実際にその目で確かめてみてください。右の写真は酒井建さんからお借りしました。(櫻井多美子)

◆夏は去り、秋を迎えて

ナス、キュウリ、トマト、オクラ、シシトウ……野菜だらけの夏がようやく終わりました。朝昼晩、野菜料理に攻められましたが、これでやっと解放です。八色スイカも枝豆も腹いっぱいいただきました。旧盆を過ぎたせいか、畑の草取りをしていると、バッタが飛び跳ねています。道沿いには萩が枝をたらし、コスモスも咲き出しました。のんびり、ぶらぶら、山を歩きたくなります。久しぶりに水無溪谷を散策しようか、裏山でお茶を濁そうか、それとも奮起して、麓から八海山に登ろうか、ただいま思案中です。(高橋良一)

創作50周年記念に寄せて

村山雨景

染め職人の家で生まれ育った私は家業の跡を継ぐため、父母の手伝いをしながら制作を始めました。父は山から草木を取って来ては鍋で煮て糸に染める、母はその糸でハタを織る。

やがて、修業のため京都へ。そこで出逢った一枚のローケツ染めの絵！ 私の人生が変わりました、感動でした。こんなにもキレイな染めが世の中にあるのか！ その夜は眠ることが出来ませんでした。

それからの日々は新たな染め絵の研究に明け暮れ、失敗の連続。だから、この時代にはろくな物はないのです。従兄弟にあげたり捨てたりと。でも、一枚は奇跡的にもありました。母が残してくれたのです。十日町地方の冬行事「雪のほんやら洞」。幼い私と姉がカマクラで遊ぶ楽しい絵です。仏壇にあるロウソクを溶かして竹の筆でやつと染め描いた第一作、15歳の時でした。今展では、その絵を額に入れて初公開、実に50年前の記念作です。第一作から今日



村山雨景氏の制作風景

までの私の歩んで来た集大成が、この秋、池田記念美術館で執り行われます。関係各位には心より感謝致します。

池田記念美術館 展覧会&イベント情報

■大嶋月庵・桑原逸庵 師弟展

◎1階企画展示室・多目的ホール ◎期間：9月5日(金)～9月23日(火)

魚沼市と南魚沼市の二人の日本画家。内閣総理大臣賞を受賞した師弟の代表作を展示

■ギャラリートーク■ 9月7日(日) 13時30分～

①桑原逸庵氏による作品解説と実演会 ②魚沼の日本画の歴史を語る座談会



大嶋月庵「湖映(芽吹き頃)」

■彩月会水墨画展

◎1階企画展示室・多目的ホール ◎期間：9月26日(金)～9月30日(火)

日本水墨院新潟県支部彩月会の定期展覧会です。会員の作品約70点を展示します。

■プロ野球80年—新時代到来!

◎2階スポーツカード展示室

10月中旬まで開催中

80年を迎えるプロ野球を熱く応援。最新のベースボールカードを展示中です。「ドラフト1位指名」「助っ人外国人ベスト10」のパネルコーナーも設置し、1986年来日したメジャーリーガーのサインボールや100年前の貴重な大リーグカードも公開中です。



100年前の大リーグカードは必見です

■常設展

「日本美術展示室」日本最初の女性洋画家であるラギーザ・玉の油彩画と少女時代の習作をはじめ、會津八一の書、星襄一の版画などを展示しています。「小泉八雲展示室」日本文化を深く愛した小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)。小泉家秘蔵の資料約1500点の中から、直筆原稿や公文書、家族との書簡などを展示しています。「スポーツ文化展示室」野球、相撲、オリンピックを中心としたスポーツコレクション。草創期の野球文化を知るユニフォームなど歴史的な展示品を見ることができます。

◎次回展覧会&イベント情報

■染め・村山雨景展 画業50年—少年期15歳から65歳までの集大成を展示—

◎期間：10月3日(金)～11月4日(火)

伝統的な染色と現代的な日本画の技法を取り入れた独特の「雨景染め」作品、渾身の集大成!

■能(謡と仕舞)白謡会の無料公演会 9月10日(水)13時30分開演(開場13時)

横浜を本拠地とし、六日町に支部がある観世流能楽同好会による公演です。能の魅力をご堪能下さい。入場無料。なお、当日は休館日のため展覧会・常設展はお休みとさせていただきます。

■①月例音楽会 9月21日(日)11時30分 ②フォークソングの日 9月28日(日)14時

Shop情報 秋もののウェアを販売中

スポーツの秋に大活躍するウェアが大集合。早い者勝ちです。お見逃しなく!



池田記念美術館 南魚沼市浦佐5493-3 (八色の森公園内)
TEL 025-780-4080 / FAX 025-777-3815
【開館時間】9:00～17:00 (入館受付は16:30まで)
【入館料】一般 500円 高校生以下無料
【ホームページ】http://www.ikedart.jp

【9月の休館日】
毎週水曜日 (3日、10日、17日、24日)
※4日、25日は展示替えのため臨時休館となります。
※展覧会の最終日は15:00閉館(入館受付は14:30まで)